

都道府県が設定している要防除水準（水稻病害）

(2024年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻	種子伝染性病害虫（いもち病、ばか苗病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、イネシンガレセンチュウ等）	育苗時	—	—	種子消毒時	<ul style="list-style-type: none"> ・種子更新は採種は産の購入種子を使用する。 ・種子消毒前に必ず塩水選を行う。 ・温湯消毒、拮抗微生物農薬や化学合成農薬のいずれかによる種子消毒を実施する。 ・前年度の発病の有無にかかわらず必ず行う。 	大阪府
水稻	葉いもち	—	見取り調査	葉いもちの急性型病斑が見られる場合や、上位葉に病斑が見られる場合	即時		佐賀県
水稻	穂いもち	—	本田での見取り調査	葉いもちの病斑数が多く、急性型病斑が見られるなど、穂いもちの多発生が予想される場合	穂ばらみ期後期と穂揃い期に防除	多発生の場合	佐賀県
水稻	穂いもち	—	見取り調査	葉いもちの発生が見られる場合	出穂期に必ず防除	並発生の場合	佐賀県
水稻	葉いもち	7月中旬	見取り調査（1圃場あたり25株以上調査）	病斑が4～5個/株	即時		大分県
水稻	葉いもち	8月上旬	見取り調査	進行型病斑増加	即時		大分県
水稻	穂いもち	8月上旬	見取り調査	葉いもちの病斑確認	即時		大分県
水稻	いもち病	育苗～植え付け直後	見取り調査	苗に症状が認められたら	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
水稻	葉いもち	移植後	見取り調査	病斑初確認	即時		大分県

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	葉いもち病	分けつ初期～分けつ最盛期、幼穂形成期～穂ばらみ期	見取り調査、1ほ場あたり25株	発病株率5%以上	即時	<ul style="list-style-type: none"> ・基肥のチッソ質肥料を適正に施用する。 ・疎植栽培（50～60株/3.3平方メートル）を行う。 ・育苗中に発病した育苗箱からは移植しない。 ・例年発生が見られるほ場ではいもちに適用のある箱施用剤を使用する。（特に、日照不足などで低温が予想される年） ・補植用苗を放置しない。 ・常発地で発生予察調査による発病程度が「少」以上の場合には薬剤による防除を行う。 	大阪府
水稲	穂いもち	穂ばらみ期	見取り調査	葉いもちの病斑を上位葉に多数確認	穂ばらみ期及び穂揃期		大分県
水稲	いもち病（葉いもち）	止葉始とその1週間後（7月10日以前は不要）	見歩き調査、1圃場あたり10mずつ4ヶ所	病株1株以上	即時		北海道
水稲	穂いもち	出穂期～穂ぞろい5～10日後	見取り調査、1ほ場あたり25株	発病株率5%以上	即時	<ul style="list-style-type: none"> ・発生予察情報を参考にして、発生が予測される場合には穂肥の施用を控える。 	大阪府
水稲	赤色菌核病	成熟期	10株×5ヶ所	発病度40または病斑高率35%以上	翌年に育苗箱施用または水面施用		北海道

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻（極早生、早生品種）	紋枯病	随時	ほ場内の任意の2地点において、畦から10列目の株を各50株（計100株）調査する	発病確認後	即時	（防除要否の目安）	滋賀県
水稻	紋枯病（地域単位）	7月10日頃	1地域20圃場、1圃場100株の発病株率	平均発病株率8%以上：2回散布、平均発病株率8%未満：7月20日頃の調査実施	穂ばらみ期・穂揃い期	圃場単位の防除要否判断にも活用できる	新潟県
水稻	紋枯病	7月上旬～9月下旬	見取り調査、1ほ場あたり25株	発病株率20%以上	即時	・疎植栽培に努める。 ・病原菌は菌核の塊で越冬するので、前年度に多発生した場合には稲わらの処理を適正に行う。	大阪府
水稻	紋枯病	7月中旬（早生穂ばらみ期）	発病株率調査、圃場あたり100株	10%/100株	即時		福井県
水稻	紋枯病（地域単位）	7月20日頃	1地域20圃場、1圃場100株の発病株率	平均発病株率10%以上：1回散布、平均発病株率10%未満：7月末～8月初旬の調査実施	出穂期直前～出穂期	圃場単位の防除要否判断にも活用できる	新潟県
水稻	紋枯病	7月下旬（中生穂ばらみ期）	発病株率調査、圃場あたり100株	20%/100株	即時		福井県
水稻	紋枯病（地域単位）	7月末～8月初旬	1地域20圃場、1圃場100株の発病株率	平均発病株率20%以上：1回散布、平均発病株率20%未満：防除不要	出穂期～穂揃い期	圃場単位の防除要否判断にも活用できる	新潟県
普通期水稻	紋枯病	8月上旬（幼穂形成初期）	葉鞘部病斑、見取り調査	発病株率20%以上	即時		鹿児島県
稲	紋枯病	幼穂形成期～穂ばらみ期	見取り調査	発病株率15～20%	即時		埼玉県
水稻	紋枯病	穂ばらみ期	見取り調査	発病株率20%以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
水稻（コシヒカリ）	紋枯病	穂ばらみ期	1圃場あたり、25株×2ヶ所の計50株で調査	発病株率18%以上	即時		鳥取県

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻	紋枯病	穂ばらみ期	見取り調査	病斑確認	即時	最低1回散布	大分県
水稻（早期）	紋枯病	穂ばらみ期	見取り調査	発病株率20%	幼穂形成期～出穂期		熊本県
水稻	紋枯病	穂ばらみ期	見取り調査、1圃場の任意の100株で発病状況を調査	発病株率 (1) 早生：5% (2) 中生：15%	穂ばらみ期		富山県
水稻	紋枯病	穂ばらみ後期（出穂前10日から出穂期）	見取り株率：調査ほ場内よりランダムに選んだ25株の病斑を確認した株数を調査する。	穂ばらみ期の発病株率・早生種：10%以上・中生種：20%以上	穂ばらみ後期（出穂前10日から出穂期）までとする。		広島県
水稻（普通期）	紋枯病	穂ばらみ期	見取り調査	発病株率20%	穂ばらみ期～出穂期		熊本県
水稻	紋枯病	穂ばらみ期（普通植栽培）	見取り調査、任意の25株について発病状況を調査	穂ばらみ期発病株率20%以上（普通植栽培）	出穂直前または穂揃い期		岐阜県
水稻	紋枯病	穂ばらみ期～出穂期	畦畔際から5～6歩入り、そこから中央に向かって25株見取り調査する	発病株率 早生～中生種：15%・晩生種20%	出穂期		岩手県
水稻	紋枯病	穂ばらみ期～出穂期	5列×5株＝25株を調査し、発病株率を算出	発病株率が15%	出穂直前～穂揃期	茎葉散布剤	秋田県
水稻	紋枯病	普通期栽培の穂ばらみ期	見取り調査 100株	発病株率 15～20%	最高分けつ期～穂揃期		愛媛県
稲	紋枯病	穂ばらみ中期（出穂14日前頃）	見取り調査	発病株率 15～20%以上	穂ばらみ期		山口県
水稻	紋枯病	穂ばらみ後期	水田中央部の見取り調査、1筆あたり5条おきに20株、計100株調査	はえぬき：発病株率10%以上・ササニシキ：発病株率7%以上	即時		山形県
水稻	紋枯病	出穂20日前頃	見取り調査	発病株率20%以上	即時		京都府
水稻（コシヒカリ以外の品種）	紋枯病	出穂前20日	1圃場あたり、25株×2ヶ所の計50株で調査	発病株率20%以上	即時		鳥取県
水稻	紋枯病	出穂20日前	見取り調査	病株率10～20%	即時	「普通期栽培」	香川県
水稻（コシヒカリ）	紋枯病	出穂前15～20日	1圃場あたり、25株×2ヶ所の計50株で調査	発病株率25%以上	即時		鳥取県

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻	紋枯病	出穂15日前頃	見取り調査。1圃場あたり任意の25株について発病状況を調査	発病株率15%以上	穂ばらみ後期まで		千葉県
水稻（箱粒剤無施用の場合）	紋枯病	出穂14～7日前	見取り調査	発病株が認められる場合	出穂期～出穂14日後	箱粒剤無施用の場合	佐賀県
稲	紋枯病	出穂10日前および20日前	1圃場あたり任意の50株×2ヶ所について発病株率を調査	【普通栽培】（1）出穂20日前の発病株率：30%以上 （2）出穂10日前の発病株率：40%以上	即時		岡山県
稲	紋枯病	出穂10日前および20日前	1圃場あたり任意の50株×2ヶ所について発病株率を調査	【早植栽培】（1）出穂20日前の発病株率：5～10%以上 （2）出穂10日前の発病株率：10～15%以上	即時		岡山県
水稻	紋枯病	出穂10日前	見取り調査	病株率25%	即時	「普通期栽培」	香川県
水稻	紋枯病	出穂10日前～出穂期	見取り調査、1圃場あたり50株を調査	発病株率20%	即時		群馬県
水稻	紋枯病	出穂前まで	畦畔際からの見取り調査	（収量が5%以上の減収を想定して防除する場合）発病株率：「ひとめぼれ」18%、「ササニシキ」10%、「コシヒカリ」29%	穂ばらみ期～出穂期 （多発が見込まれる場合、穂揃期にも防除する）		宮城県
水稻	紋枯病	出穂前まで	畦畔際からの見取り調査	（収量が3%以上の減収を想定して防除する場合）発病株率：「ひとめぼれ」12%、「ササニシキ」9%、「コシヒカリ」18%	穂ばらみ期～出穂期 （多発が見込まれる場合、穂揃期にも防除する）		宮城県
水稻	紋枯病	出穂前まで	畦畔際からの見取り調査	（収量が1%以上の減収を想定して防除する場合）発病株率：「ひとめぼれ」10%、「ササニシキ」3%、「コシヒカリ」14%	穂ばらみ期～出穂期 （多発が見込まれる場合、穂揃期にも防除する）		宮城県

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻	紋枯病	出穂期	水田中央部の見取り調査、1筆あたり5条おきに20株、計100株調査	はえぬき：発病株率15%以上・ササニシキ：発病株率10%以上	即時		山形県
水稻（箱粒剤施用の場合）	紋枯病	出穂期	見取り調査	発病株率が10%を超え、上位葉への進展が予想される場合	出穂期～出穂14日後	箱粒剤施用の場合	佐賀県
水稻（箱粒剤無施用の場合）	紋枯病	出穂期	見取り調査	発病株率が10%を超え、上位葉への進展が予想される場合	出穂期～出穂14日後	箱粒剤無施用の場合	佐賀県
水稻（中生、晩生品種）	紋枯病	出穂20日前	ほ場内の任意の2地点において、畦から10列目の株を各50株（計100株）調査する	発病株率：15～20%以上	即時	（防除要否の目安）	滋賀県
普通期水稻	紋枯病	穂揃い期～乳熟期	葉鞘部病斑、見取り調査	発病株率40%以上	即時		鹿児島県
水稻	紋枯病	乳熟期	見取り調査（1圃場あたり25株以上調査）	発病株率50%以上で残暑が厳しいと予想される場合	即時		大分県
水稻	紋枯病	成熟期	10株×5ヶ所	発病度40または病斑高率35%以上	翌年に育苗箱施用または水面施用		北海道
水稻	紋枯病	収穫前	畦畔際からの見取り調査	（次の年の予防薬剤使用の目安）発病株率：40%	穂ばらみ期～出穂期 （多発が見込まれる場合、穂揃期にも防除する）		宮城県